

令和元年度 自己評価表

愛媛県立松山聾学校
学校番号(53)

教育方針	聴覚に障がいのある幼児児童生徒に対して、幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を行うとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、社会自立する人間を育てる。	重点目標	幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、特別支援教育を推進する。 (1) 個に応じた指導を推進し、基礎学力の定着、コミュニケーション力の向上を目指す。 (2) 聴覚障がい教育の専門性を高める研修体制・内容を整え、授業づくりや研究実践に取り組む。 (3) 本人・保護者の願いを受け止め、家庭と連携して教育活動の充実を図る。 (4) 関係機関との連携や教職員の専門性の向上により、特別支援教育のセンター的機能が果たせる学校作りを目指す。
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導・言語指導	個に応じた指導の充実	一人一人の特性や学習の状況に応じた授業の工夫により、学習への興味や意欲を高めるとともに、個別の指導計画を作成・活用し、基礎学力の定着・向上を図る。	A	学習指導要領の改訂で、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるように「何が出来るようになるか」という各教科の目標が新しく示され、それを達成するために、個別の指導計画様式を変更した。	前年度に様式変更をした個別の指導計画に、更なる改善を加えて、新学習指導要領の運用に適したスタイルを目指したい。校内での他教科・他学部との連携だけではなく、「社会に開かれた教育課程の実現」を意識し、社会・医療など校外との連携・協働の実践ができるような、教育課程の編成や運用を進めたい。
	読書指導の充実	読書感想文・感想画の作成、多読者表彰等の本に親しみ、読書意欲を高める活動を推進する。個々の発達に応じた図書の利用を進め、一人平均月3冊・年間30冊以上の読書冊数を目指す。	B	県立や松山市中央図書館との連携だけでなく、お薦めの本の掲示、学級文庫の日設置、読み聞かせ会や「ライブラリー」の発刊などを継続的に行った。読書週間行事の表彰、県立図書館のブックトーク等は読書への興味・関心を持たせるだけでなく習慣化にも役立った。今年度は貸出方法を簡略化したことで、自ら本を借りに行く場面が増えた。	小学部では「読書の木」の実施で、児童同士や教職員、保護者も読書活動の様子を知ることができ、賞賛や啓発などに役立った。また、保護者の要望も反映することができるよう、選書会の開催時期を参観日等に変更するなどし、今後も読書への興味・関心を視覚化・体験化できるよう取り組みたい。
	専門性及び資質の向上	ICTを活用した授業や幼児児童生徒の主体的・対話的で深い学びの授業の在り方について研究する。また、積極的に他部の授業参観を行ったり、研修に参加したりして、専門性の向上を図る。特別支援学校教諭免許状（聴覚障がい領域）取得率は全教員の80%以上を目指す。	A	ICTの効果的な活用が多く見られるようになり、幼児児童生徒にとってより分かりやすい授業が行われるようになってきていると思われる。授業参観各部1回以上を目標に、年間4回の授業参観週間と8回の研究授業を実施し、授業参観シートを活用して意見交換を行った。幼稚部、高等部の授業の参観が他に比べ少なかった。	Wi-Fi環境の整備とともに、ICTを活用した授業を更に推進したい。授業参観においては、特に幼稚部、高等部の参観を推進する必要がある。ICTや参観の所感などの情報を全校で共有し、学校全体の授業力の向上に努めたい。
特別支援教育体制	キャリア教育の充実	望ましい勤労観・職業観の育成を図るため、全教職員の共通理解の下、キャリア教育を推進する。また、社会自立に向けて必要な資質と学力の向上を図りつつ、進学及び就職指導・支援の充実に努め、卒業生の就労及び定着支援等に係るアフターケアについても、外部関係機関との連携の下、年間20件以上の実施を目指す。	A	キャリアガイド教室や夏季休業中の事業所等見学等の研修その他の活動等について、地域・家庭との協働及び連携を例年以上に心掛けたが、依然として積極的な参加が特定の保護者に偏っている。卒業生のアフターケアについては、本年度も件数こそ多くなかったものの、中身の濃い支援を関係機関との連携の下に行うことができた。	夏季休業中の事業所等見学その他の研修については、引き続き、地域や家庭に計画が立った段階で周知を行いたい。卒業生のアフターケアについても、関係機関の要請を受けて実施する事例が複数あったため、次年度も様々な事案に対応できるよう協働の体制強化を図りたい。
	自立活動の充実	一人一人の教育的ニーズや本人や保護者の願いを踏まえ、個別の教育支援計画や自立活動の個別の指導計画を作成し、教育活動全体を通じて自立活動の指導の充実を図る。	A	保護者、児童生徒、教職員の評価において、肯定的な評価をしている割合は高く、自立活動の重要性や指導の在り方について一定の理解が得られていると考える。	一人一人の教育的ニーズを踏まえた自立活動の個別の指導計画を作成・活用しつつ、教職員全体で自立活動の指導や配慮事項について共通理解を図りながら指導を充実させていく。
	聴覚障がい教育のセンター的機能の充実	ネットワーク会議等を通して関係諸機関との連携を深め、協働による支援の充実・発展を目指す。教育相談、ホームページや広報誌を通して、聴覚障がいに関する教育、医療、福祉に関する情報を校内外に提供する。	B	ネットワーク会議や担当者会等を通して関係機関との連携を図り、支援に関する情報交換や各機関が果たす役割等の確認などの成果が得られた。	関係機関との連携については、今後も、保護者に対して、ホームページや保護者講座、自立活動便り等を通して、情報提供を行い、本校が行っている関係機関との連携について広く知っていただくようにしていく。
		地域の聴覚障がいのある幼児児童生徒の希望や実情に沿って、400件以上の教育相談や70件以上の訪問支援を行う。サマースクールや幼児体験学習、公開講座、学校公開等への参加を呼び掛け、本校の教育活動への理解が得られるように努める。	A	地域の聴覚障がいのある幼児児童生徒の教育的ニーズや在籍校（園）からの依頼に応じて教育相談や訪問支援を実施した。訪問支援等の件数は、目標値を上回る見通しである。また、学校公開等の開催により、本校の教育活動の理解啓発を行った。	学校公開等、本校の教育活動の理解啓発など、センター的機能については、本校在籍の幼児児童生徒にとっても有益であるため、更に活動内容等を充実させていきたい。
生徒指導	安全教育の充実	様々な状況を想定した避難訓練を学期に1回以上行い、幼児児童生徒及び教職員の自助・共助の意識を高める防災教育を推進する。防災教育、交通安全教育等の具体的な活動を通して、安全への意識や実践力を高める。また、医療機関との連携により、医療的ケアを安全に実施する。	A	防災教育では、地域合同防災訓練、津波を伴う地震の際の「水平避難」の訓練、外部参加者がいる学校行事中の避難訓練等、これまでとは異なる形で、様々な想定を基にした取組ができた。医療的ケアについては、対象児童生徒数、ケアの内容、看護師配置など、校内体制が大きく変わったが、関係者が密に連絡を取り合い、保護者の協力の下、安全に実施できている。	防災教育では、引き続き、地域との連携強化を目指すとともに、同じ敷地内の松山城北分校との連携にも留意したい。また、校内の防災士が機能的に動くことができる体制作りをし、様々な想定を基にした実際的な取組を行いたい。今後も医療機関との連携を図りながら幼児児童生徒が安心して学習活動に取り組めるように努めたい。

<p>人権・同和教育の充実</p>	<p>「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、学校全体で組織的に対応する。年間3回以上の人権学習を実施するとともに、人権・同和教育だよりを発行し、幼児児童生徒、教職員、保護者への啓発を行う。</p>	<p>A</p>	<p>「いじめ防止基本計画」について、年度始めに教職員間で共通理解を図り、いじめ防止に関して組織的に対応した。各学期末に実施した学校生活意識調査の結果、今年度は問題が見られなかった。人権だよりの中で、各学部の人権学習の取組や、教職員研修の内容について紹介した。</p>	<p>各学期末に学校生活意識調査を行うなどして、引き続き学校全体でいじめの防止・早期発見に取り組んでいきたい。本校の人権・同和教育への理解を深め、幼児児童生徒、教職員、保護者の人権意識を高めるために、今後も啓発に努めたい。教職員に対して、人権問題の現状や、思春期の問題行動の捉え方と対応について研修を実施した。これらの内容を踏まえ、学校生活全体を通して人権教育を行い、幼児児童生徒が自他を尊重する意識を育むことができるよう努めていきたい。</p>
-------------------	--	----------	--	---

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。